

小學校に現はれた幼稚園の成績

新潟縣新發田幼稚園主 市 島 貞 三

新發田の町は戸數三千五百、人口一萬八千を有し、下越後に於ける一番の市街で、軍隊を始め、各官衙の所在地であります。他より轉任して參られた武官や文官の方が申さるるには、此町は幼稚園がなくて困る、前任地で幼稚園へ出して居つた子供を連れて來て見ると氣の毒でならぬ。兄さんも姉さんも學校へ行くのに私ばかり行く處がないのかと申すとのことであります。

私はこのことを屢々耳にし、世の進運に伴ひ幼稚園は此土地にも必要であると感じました。そこで同志の方々と共に設立に努力いたしました。時恰も日韓併合の年なる明治四十三年でありましたから、それを記念として開園した次第であります。處が父兄方から大に満足を得、逐年入園志望者が増加しました。されどまた一面には絶対に幼稚

園反對の方もあり、疑を以て居らるゝ方もあり、私は學者の説や先輩の實驗談などを受賣りして説明して居ましたものゝ、其實は實際に於て如何なる結果を示すものなるかを氣遣ひまして、私の幼稚園を終へて入學して居る町の小學校につき、折節狀況を聞き、先づ成績は優るとも劣ることはないとの信念丈は得て居りましたが、具體的に調査する迄に至らなかつたのです。

然るに今度漸く機會が來ました。即ち第一回の終了生が尋常六學年に進みずつと一學年迄續き三學期も経過しましたことですから、小學校長を煩はして左の統計を得ました。

私の幼稚園は家庭に上下を通じ、社會の各階級の集合でありますから一般的であります。始めより今日に至る迄、其状態は少しも變りませぬ。強

ひて申さば、極々貧困者の幼児が缺けて居る位のこととあります。故に表中、幼稚園を経たる児童と經ない児童とは、大體差異なきものと信じて頂きたいのであります。

世間では、幼稚園を経たる児童の成績は、小学校に入學當時はよろしいが、高學年に進むと共にわるくなりはしないかと疑はるゝ方もありますが第二表に依りて見れば、其形跡はないのであります。早熟を禁物として居るので素よりあらう筈がないと考へられます。

私は此統計を得て、一と安堵いたしました。是迄の保育方法に大過がなかつた、職員一同が精神的に努力いたした效があつた、併し如斯著しき效果を得ました原因は何でありませうかといふに、いろ／＼原因もありませうが、私は父兄が児童に對し注意せらるゝのは幼稚園時代に於て最も深いと思ひます。此時に於て、幼稚園の保育と相待つて家庭に於ても自然一段と保育に努めうらるゝ關係が生ずると信じます。これが即ち最大原因をなしたものと考へられるのであります。

第一表

| 種別 | 學業 | | 操行 | |
|----|--------------|----------|---------------|--------|
| | 總數 | 百分 | 總數 | 百分 |
| | 同 | 比 | 同 | 比 |
| 甲 | 幼稚園を経たる者 一五二 | 四八五・一〇〇〇 | 幼稚園を経たる者 一三〇 | 三三九 |
| 乙 | 幼稚園を経たる者 一五 | 二九二 | 幼稚園を経たる者 二六 | 五、一〇、三 |
| 丙 | 幼稚園を経たる者 一九 | 五、一〇、三 | 幼稚園を経たる者 二六 | 五、一〇、三 |
| 丁 | 幼稚園を経たる者 一 | 二九二 | 幼稚園を経たる者 一六、九 | 三 |
| 計 | 同 | 同 | 同 | 同 |

第二表

| 種別 | 幼稚園を経たる児童の學業 | |
|-----|--------------|-----|
| | 總數 | 百分 |
| 一學年 | 七 | 三三 |
| 二學年 | 六 | 三三 |
| 三學年 | 七 | 三三 |
| 四學年 | 五 | 二八 |
| 五學年 | 五 | 三三 |
| 六學年 | 四 | 二〇 |
| 計 | 三七 | 一九二 |

一右表は新發町三つの小學校の尋常科生各學年を合せたるものにして大正六年十二月末の考査に基きたるものなり其人員幼稚園を経た者三百七十人、同經ざる者千八百六十九人とす。